

現計画の進捗状況と「歯及び口腔の健康づくり推進実施計画」(案)における目標項目設定について

資料2

<健康増進計画及び歯の健康づくり計画(現計画)>

ライフステージ	目標項目・指標	H13年 計画策定時	H21年 計画改定時	目標値 (H24年度)	進捗状況 (年度)	計画改定時 からの状況
共通	(定期的な歯科検診の受診者の増加、過去1年間に受けた人の割合(60歳))	18.6%	27.6%(H18)	30%以上	39.5% (H22)	
乳幼児期	う歯のない幼児の増加(3歳児)	70.6%	78.8% (H18)	83%以上	82.0% (H22)	
	フッ化物歯面塗布を受けたことのある幼児の増加(3歳児)	42.0%	48.9% (H17)	55%以上	64.6%(H21)	
	間食として甘味食品・飲料を頻回飲食する習慣のある幼児の減少(1~5歳)	29.9%	22.6% (H16)	15%以下	19.5%(H21)	
学齢期	一人平均う歯数の減少(12歳)	2.7歯	1.5歯 (H18)	1歯以下	1.18歯(H23)	
	フッ化物配合歯磨剤の使用の増加(1~14歳) *(6~14歳)	13.9%	52.5%(H16) 56.5%(H16)	90%以上	-	
	個別的な歯口清掃指導を受ける人の増加(15~24歳)	19.7%	16.5%	30%以上	-	
成人期	進行した歯周病の減少(40歳) (50歳)	32.0% 46.9%	35.1%(H18) 47.7%(H18)	22%以下 33%以下	36.3%(H22) 48.9%(H22)	
	歯間部清掃用具の使用の増加(40歳) (50歳)	32.6% 29.3%	32.3%(H18) 32.3%(H18)	50%以上 50%以上	35.9%(H22) 40.3%(H22)	
	喫煙が及ぼす健康影響についての十分な知識の普及 (歯周病)	27.3%	36.8%(H16)	100%	37.6% (H23)	
	禁煙支援プログラムの普及	32.0%	48.8%(H18)	100%	100%(H23)	
高齢期及び特に配慮を要するもの	自分の歯を有する人の増加 60歳で24歯以上	44.1%	76.0%(H18)	80%以上	76.5% (H22)	
	80歳で20歯以上	11.5%	25.0%	30%以上	25.0%	
	定期的な歯石除去や歯面清掃を受ける人の増加(60歳)	20.6%	26.3% (H18)	30%以上	38.7% (H22)	
	定期的な歯科検診の受診者の増加、過去1年間に受けた人の割合(60歳)	18.6%	27.6%(H18)	30%以上	39.5% (H22)	

評 価
・「歯科健診受診者の増加(60歳)」は目標を達成したが、成人期の歯周病を予防し、歯の喪失を抑制するためには、20歳以上の年代において、歯科健診を受診する者やかかりつけ歯科医を持つ者の割合の増加を図ることが必要であることから、新たな指標に加える。
・「う歯のない幼児の増加(3歳)」、「一人平均う歯数の減少(12歳)」は、改善しているが、市町格差が存在するため、今後は指標を達成した市町数の増加を指標とする。 ・「フッ化物歯面塗布の増加」、「甘味食品等の間食の習慣の減少」、「フッ化物配合歯磨剤の使用増加」は、県データが得られないため、指標ではなく、う蝕予防のための推進方策とする。
・口腔状態の変化に応じたう蝕等予防対策の徹底が必要であり、指標としては、県データが把握できる「3歳児での不正咬合等が認められる者の減少」と「中学生・高校生で歯周病のない者の割合の増加」を新たに指標に加える。
・「歯間清掃用具の使用の増加」は改善傾向にあるが、「進行した歯周病の減少」は、悪化傾向にあるため、引き続き対策が必要である。
・「進行した歯周病の減少」、「歯間部清掃用具の使用の増加」については、市町歯周疾患検診のデータであり、データに偏りがあることから指標からはずし、代わりに県民健康づくり実態調査(H23)を用いて、60歳、80歳のほか各年代ごとの8020運動の目標達成率を指標とする。
・「喫煙が及ぼす健康影響についての十分な知識の普及(歯周病)」については、改善傾向にあるが、目標に達していないため、今後も継続した取組が必要である。禁煙支援については、全市町で取り組まれ、目標を達成している。喫煙に関する指標及び取組については、生活習慣病予防等の健康づくりの分野に記載する。
・「自分の歯を有する人の増加(60歳)」は、改善傾向にあるが目標に達していない。「定期的な歯石除去等を受ける人の増加」は目標を達成している。
・「自分の歯を有する人の増加」、「定期的な歯石除去や歯面清掃を受ける人の増加」については、市町歯周疾患検診のデータであり、データに偏りがあることから、県民健康づくり実態調査(H23)を用い、60歳、80歳のほか各年代ごとの8020運動の目標達成率を指標とする。
・生活の質の向上に大きく関係している口腔機能の維持・向上については、国においては、「60歳代における咀嚼良好者の増加」を指標とする予定であるが、全国値しかないため、県においては、「良く噛む人の割合の増加」(県民健康づくり実態調査(H23))を指標とする。
・むし歯や歯周病に罹患・悪化しやすい障害者、高齢者、妊婦等に対する歯科保健サービスについて、新たに指標とする。

<歯と口腔の健康づくり推進実施計画(案)>

目標項目・指標(案)	現状値	目標値 (H29年度)	参考 国目標値 (H35年)
過去1年間に歯科健康診査を受診した者の割合の増加(20歳以上) (県民健康づくり実態調査(H23))	46.9% (H23)	56.3%	65% (20歳以上)
かかりつけ歯科医をもつ者の割合の増加 (県民健康づくり実態調査(H23))	70.0% (H23)	84.0%	
3歳児のう蝕のない者の割合が80%以上である市町の増加	33市町 (H22)	39市町	
3歳児での不正咬合等が認められる者の減少	14.6%	11.7%	10.0%
12歳児での一人平均う歯数が1.0未満である市町の増加	9市町 (H22)	11市町	
中学生・高校生で精密検査や診断・治療の必要な歯周病のない者の割合の増加	95% (H23)	100%	歯肉炎を有する者の減少 20%
8020目標達成者数の増加 (県民健康づくり実態調査(H23))	8020目標値 40歳-27歯以上 50歳-25歯以上 60歳-24歯以上	40歳-74.7% 50歳-76.9% 60歳-61.1% (H23)	40歳-89.6% 50歳-92.3% 60歳-73.3% 60歳-70%
歯間清掃用具を使用する者の割合の増加(20歳以上) (県民健康づくり実態調査(H23))	45.1% (H23)	54.1%	
8020目標達成者数の増加 (県民健康づくり実態調査(H23))	8020目標値 70歳-22歯以上 80歳-20歯以上	70歳-53.5% 80歳-35.2% (H23)	70歳-64.2% 80歳-42.2% 80歳-50.0%
定期的な歯石除去や歯面清掃する者の割合の増加(20歳以上) (県民健康づくり実態調査(H23))	24.6% (H23)	29.5%	
(共通目標へ)			
よく噛む人の割合増加 (県民健康づくり実態調査(H23))	56.7% (H23)	68.0%	
介護予防事業における口腔ケアを実施している市町数の増加	36市町 (H23)	41市町	
障害(児)者入所施設での定期的な歯科健診実施率の増加	(調査予定)		
介護老人福祉施設及び介護老人保健施設での定期的な歯科健診実施率の増加	(調査予定)		
妊婦歯科健診、相談に取り組みむ市町数の増加	32市町 (H23)	38市町	

*はH21「歯の健康づくり計画」改定時に記載した指標、 は全国値、 は市町歯周疾患検診 計画改定時からの状況(達成: 、改善: 、悪化:)

は国新規目標(「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」骨子(案)に関する目標(案))、 は新規県独自目標、